

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家(しらゆり棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(しらゆり棟)		
所在地	奥州市江刺区田原字大日195-1		
自己評価作成日	平成 29 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.1.2017.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0371200387-00&Pr.efCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 12 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・温泉の源泉を直送し、その源泉を使用した入浴サービスを提供しています。 ・ご家族様へ入居者様のホームでの活動や生活をお知らせする為、入居者の活動写真と担当職員のコメントを付けた「げんきだより」を毎月発行しています。 ・四季を感じて頂けるような行事を企画し、楽しんでいただいています。(花見、夏祭り、紅葉がり、クリスマス会等々)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域の中心部にあつて周辺を田畑や森林樹木等の豊かな自然環境に囲まれた高台に位置している。職員は、運営法人の経営方針と事業所理念を日々確認・共有しながら、利用者の個性を尊重し、利用者本位を徹底している。同法人が運営するデイサービスや居宅介護支援事業所が隣接して設置され、医療機関との連携の下、利用者の心身の状態に合わせた専門的な福祉や介護サービスを提供している。運営推進会議には、地域の振興会や自治会区長や消防団員など地域の関係者の参加を得て、ともに学びながら、事業所の困ったこと・心配なこと等、多方面にわたる話題に活発な議論がなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家(しらゆり棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」を理念に掲げ、入居者様が自発的にホームでの生活を楽しく頂けるような生活支援を実践している。	法人の経営理念の下に、事業所理念を職員皆で話し合い、共有スペースに掲示している。ケアプラン作成や利用者のケアなどで困った場合には、ちょっと立ち止まって理念を思い起こし、対応を協議・判断、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区振興会行事(文化祭、運動会等)には利用者とともに参加し、地域との交流に努め、また地元の保育所・小学校の子供達との交流にも努めている。	散歩時に地域の方と挨拶を交わし、隣接のデイサービス利用者との触れ合っているほか、主催行事の夏祭りを通じてボランティアとの付き合いもある。とりわけ「もち米」のお裾分けを通じた、地元小学生との長年の付き合いは特筆される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業所と共同で、介護セミナーを実施し、地域住民の皆様へ、私たちの経験をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告に加え、介護に関する基本的な事項について運営推進会議委員と共有することを目的に「寄り添う介護について考えよう！」というテーマでホーム職員が発表し、運営推進会議委員と意見交換を実施した。今年より、田原地区の民生委員にも参加していただいている。	運営推進会議は、事業所からの情報提供に止まらず、介護方法等、委員や地域の皆さんへの役立ち情報を事業所から発信する場としても活用している。今後も委員との距離感を縮めながら、事業所への意見提言を得ていきたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、健康福祉課長に参加していただき、ホームの実情等について伝えるとともに、意見交換の場を設けている。	運営推進会議のほか、電話などで情報交換、助言や指導を得ている。特に利用者のケア(精神関係の対応等)について、関係課の前向きかつ適切なアドバイスが安心へ繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関ミーティングの時間を利用し、職員に対し、身体拘束をしない介護の必要性を共有し確認している。玄関の施錠に関しては夜間・早朝に関しては入居者様の安全性の観点から施錠している。	「身体拘束のない事業所」を基本に据えて、そのための重点事項を掲示しながら、それぞれに意識を高め、随時勉強会も併せ実施しながら取り組んでいる。特にスピーチロック(制止や抑制など)については、その場で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し、理解を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者が入居されており、制度に関する知識を習得し、職員とともに学ぶ機会を作ったことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様に対し不安や疑問点について十分に説明できるよう時間を確保している。改定に関しては改定理由を文書等で明示し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。また、HP上でもお問い合わせフォームにて意見を言っていたるようにしている。	運営に関する意見等は出されていないが、面会や主催行事への参加の際など、いつでも誰にでも話しがしやすいような雰囲気作りを心がけている。毎月の広報や職員からのお手紙等を工夫して意見に結び付けたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティング等を通して運営に関する職員の意見を集約し、定期的に代表者と協議している。	申し送りは主として連絡ノートで行ない、随時開催する職員会議の場では、相互の信頼のもと何でも言い合える関係が出来ている。法人本部に上げた職員意見は、検討経過等について、職員にフィードバックしながら実現に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間に関しては、職員に主婦層が多いことも考慮し、夜勤の出退勤時間に関しては考慮している。また、資格取得に関しても本人の意欲等を勘案し必要に応じた支援を行っている。給与についてはキャリアアップに応じて昇給できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーション技術等の法人内研修を実施した。また、諸研修に関しても受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内にある別事業所との人事交流を通して、介護の質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の暫定ケアプランにて支援し、1か月程度で本人への最優先支援事項を職員で協議し、ケアプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに耳に傾け、職員間で話し合っ て活動に生かしている。時々宿泊され利用 者とともに過ごされるご家族もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	げんきだよりで日常の報告をしたり、時には 家族と電話で連絡をとって家族の絆を大切 にしている。面会に来られたご家族様に対 して、入居中の状況を伝え、関係性を維持で きるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご親類等の面会希望も柔軟に 対応している。また、花見や紅葉狩り等の行 事の際も入居者様のなじみ場所をお聞きし て企画している。	馴染みが少なくなる現状にあっても、好きな ラーメン屋や実家の見学など、一緒に出かけ 継続を支援している。時には、知人が訪れ て、自分の部屋で、親しく話しこまれる方も いる。今後も、家族と協力して、馴染みのヒ ットを得たいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションの際も、気の合う利用者 と隣り合わせに座るように配慮している。隣 の棟へ行き来出来る雰囲気づくりをし、利 用者同士が自由に交流を深めるように配慮 している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努め ている	医療機関等に入院し、そのまま退居される ような場合、利用者様のその後の状況を把 握し、必要に応じて関係機関に情報を提供 している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様毎の担当を決め、その担当者が入居者の思いや願いを聴いている。また、ご家族様から生活歴を伺い、本人の思いや願いを把握するよう努めている。	家族の協力を得ながら、居室担当者が中心となって、入浴や食事時等の心が穏やかで安定している時などに声がけし観察しながら、思いや意向、更にはこれまでの生活習慣の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの経過や自宅での生活の様子を聞いたり、日常生活から見える本人の状況を踏まえ現状を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の中に個人の行動、特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族の思いや願いを中心に据え、介護支援専門員が中心となってカンファレンスを実施し介護計画を作成している。	主に居室担当者が、日常の経過の記録や毎月のモニタリングに当たっている。プランは作成担当者がモニタリングをもとに原案をつくり、カンファレンスでアイデアを出し合い協議し、体調急変時以外は、定例3か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するにあたり、気づいた事を介護実施記録の特記事項に記入したり、生活行動記録に記入し職員間で共有し、話し合う時間を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスの行事にも参加し交流を深めている。敬老会では家族にも参加していただき、利用者だけでなく家族同士の交流も深めている。また家族が希望した場合は入居者と一緒に宿泊していただけるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事に参加する等して、外部と交流したり、地元消防団員の協力のもと避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たり、ご家族様から希望するかかりつけ医を確認している。かかりつけ医に対しては、受診時、情報提供書を送付し、ホームでの状態をわかりやすくお伝えできるように努めている。	それぞれ希望するかかりつけ医に職員同行で受診している。医師との連携に問題等はなく関係は円満である。必要時は、ケアマネも同行するなど適切な受診に繋げている。普段は隣接事業所の看護師と職員とで健康管理に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していないが、併設のデイサービスの看護師に状態確認をさせていただいたり相談をしている。受診に関しては居室担当職員が生活状況等を把握したうえで、情報提供書にて医療機関に伝え、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が医療機関に入院した際、介護サマリーを医療機関に提示している。病院を訪問し、状態を確認したうえで関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談・契約締結時から、家族に対し、入居者様の最終的な生活の場、どのように生活したいのかについて時間をかけて聞くようにしている。	終末期等に係る指針は作成されていないが、普段から、家族とは、終末期等に際しては希望等に沿って最善の方法を考えることで、了解しあっている。今後は職員の終末期等対応の知識やスキルの向上を図りたいとしている。	職員の終末期対応への不安解消やスキルアップに向けて、職員の勉強会を随時、実施されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルをホーム内の職員が目にしやすい場所に貼っている。応急手当や初期対応について、マニュアルを作成し共通の認識のもとで訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団員や近隣者も含めて実施したことにより、協力体制が徐々に強まってきた。夜間想定訓練も実施した。年2回の避難訓練実施。運営推進委員の消防団や近隣からの参加をいただき実施している。	年2回の訓練は、夜間の火災を想定して行なわれている。今後は夜間避難時の避難経路、対応手順等の課題について具体的に検討したいとしている。地域の協力体制づくりは、これからも引き続き取り組みたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の入居者様に対して、それぞれの生活背景を職員が共有し、入居者様が心地いい声掛けができるように対応している。	人として人生の先輩として敬うほか、利用者が参加している役割(洗濯物たたみ、清掃など)についても、職員は感謝することを常に頭に置いて支援している。声かけはさん付け、入室の際には声かけをしっかりと行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションの中で、本人の思いや希望をくみ取り、自分で決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や都合を優先せず、帰宅願望時は寄り添ったり、徘徊の際は見守りや一緒に行動したり等、利用者のペースを優先させるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自発的に行う者、職員の声かけにて行う者とさまざまだが、毎朝行われている。外出時には、一緒に話しながら本人の意向を優先し着替えを決めていただく。理容は2カ月に1回利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備したり、食器拭き、トレー拭き、おしぼり作り等の手伝いをしていただいている。	リクエストも聞きながら法人栄養士がメニューをつくり、利用者は片づけ等、出来る範囲でお手伝いしている。食卓に出された菜園での収穫物について語り合いながら楽しくいただき、誕生日には手づくりのケーキでお祝している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。入居者様夫々の食事・水分の摂取状況を記録している。口腔体操を実施し、誤嚥等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自発的にブラッシング・うがい・義歯清掃を行っている利用者が何人かいるが、義歯に関しては、職員の声かけや介助にて夜間洗浄剤を使用して水中保存をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のために、利用者ごとに排泄チェック表をつけ、出来るだけ自分で出来る場所は、手を出さないで自立支援を行っている。	介護用品を着けている方、着けていない方も、夜間を含めて職員の適時の声かけ寄り添いにより、トイレ排泄を徹底している。職員の小まめで適切な声かけなどもあって排泄の機能の低下を防ぎ、維持している方が殆どである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	音楽に合わせてホール内を歩いたり、天気の良い日は施設の周りを歩き、適度な運動と水分確保に努めている。便秘がひどい時はかかりつけ医の処方により下剤調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴に対するニーズや心身状況を総合的に勘案して入浴サービスを提供している。	入浴は、午前と午後の希望を聞きながら、毎日の入浴にも対応している。入浴の嫌いな方には、気長に対応し足浴等を行なうこともある。歌を歌ったり職員と語りあったりして楽しんでいる。温泉湯を活用したお風呂としており、注目される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んでいただいています。居室に限らず、ソファや畳などで休んでいただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人チャートに綴り、確認をしている。薬を飲ませる時には、夜勤者がセットしたものを毎食一人ひとりの確認表により確認している。病状の変化があれば、かかりつけ医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意とする分野を見つけ、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付け、掃除等日々の役割を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、戸外に出てお茶を飲んだり歌を歌ったり、施設の周りを散歩している。ドライブと一緒に連れて楽しんで。お盆や彼岸は墓参りの為に家族と外出される方もいます。	周辺の散歩や日光浴・外気浴など天候と体調に相談しながら、気分転換・ストレス解消に繋げている。家族とも連携して受診の際の食事や墓参り外食なども支援している。利用者の希望、思いを聞き出し、出来るだけ多くの外出を心がけたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが小口現金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に電話をかけたいと申し出があった場合は、職員が間に入り話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースが取れているので、レクリエーション活動もゆったりとした状況で行えます。ソファ等も配置し、外の様子が見れるようにしているし、天窓もあり風通しのよい状況づくりをしている。	天窓とテラスから穏やかな光が差し込む中、広間にはテーブルやソファが居心地よく配置されている。壁には行事写真や手づくりの作品が、掲げられている。全体的に、清掃が徹底されており、とくに気になる臭いなどは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者と何人かで集まって会話を楽しめるようにソファを置いたり、リラックス出来る場所など工夫している。また、食席に気の合う利用者同士に座っていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等持ち込み可能にしている。	備え付けのベッドやクローゼットを活用しながら時計や鏡、家族写真が置かれている。温度はエアコンや床暖で行なわれ、整理整頓や清掃も徹底され、過ごしやすい居室環境が確保されている。入り口には異なる花の絵が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、トイレ、居室等に名前を書き、本人がすぐわかるように工夫している。日付け確認のために日にちや曜日がわかるようにホール内に表示し、レク時に一緒に声に出して確認している。		